



前略 団塊の旅行世代様

Ippo Ayumu

一歩 歩

『Boon-gate』のPDF作品を ご覧いただく前に…

操作について

- 作品の多くは「もくじ」のページで、進みたいページの項目を押せば、そのページまでジャンプし、また、ジャンプしたページのタイトルを押せば、目次のページに戻るよう設定しております。
- 直前に開いていたページに戻るには、画面上の「◀」ボタンで、直前に開いていたページに戻ります。

読み方いろいろ

- 通常は画面の「倍率」が100%前後になっていますが、「倍率」を150%まで高めると文字が読みやすい大きさになります。
- 通常は「見開きページ」で設定されていますが、「単一ページ」にすると読みやすく感じます。
- 読み進めるときは、「十字キー」を使用すると手軽です。
- 「サムネイル機能」を使用して読み進めると、2～3頁からとばし読みするのに便利です。
- 頁を「回転」させることが可能です。地図などを拡大して見るときに便利です。

http://www.bungeisha.com/PDF_is/05-top1.html でPDF作品についての説明を致しております。ご参照ください。

前略 団塊の旅行世代様

Ippo Ayumu 一歩 歩

外へさう外へ
帆を上げよう
旅こそ人生だ
アンデルセン

森華雪



森華雪書

はじめに

ここは、ネパール。カトマンズのとあるホテル、深夜一時。明日からいよいよトレッキングを始めるという前夜である。

この晩は日本からの移動の疲れもあり、同室のおじさんともども早々にベッドに就いた……のだが、なぜか同室のおじさんが夜中の一時に、部屋の明かりばかりかとんでもないことに、私のベッドの枕灯まで点けてなにやらゴソゴソとやっているのである。薄目を開けてみると、どうやら荷物整理をしているようである。

なぜ深夜の一時に部屋の明かり全開で荷物整理なのか?? 「もう、勘弁してくれ」である。このおじちゃん、異常中の異常人物だった。

なんと、この夜は深夜一時に起き、荷物整理を開始したら、電気を点けたままその方は寝もせず朝を迎えたのだ。同室のこちらはたまたまではないのだが、その朝、眠たい目を擦っている私を見て、まったく悪びれる表情も見せず、さも当然のように一言、「私は夜九時ごろに寝ると真夜中の一時ごろ起きてしまうんですよね」と得意満面に言

うのである。

旅行手記より

「兼高かおる世界の旅」の気品あふれた旅に憧れたあの頃の思い出を胸に秘めておられる方も、竹内海南江さんのように不思議・発見を求めて旅をしたい方も、「定年」という新しいキャンバスを手に入れたら、旅立ちの一步を後押ししてくれるのが本書です。まずはどうですか、一歩歩んでみては？

世界には不思議と美と感動が溢れています。もう一度子供の心と夢で世界へ！

本書をキリマンジャロに散った山本彰子さんに捧げます

一歩
歩

目次

はじめに 3

序章 旅はお嫌いですか? 11

第1章 あなたは旅の「力」持ち? 17

1	お金の力	18
2	食事の力	18
3	身体の力	22
4	病への力	23
5	周囲の力	25
6	趣味の力	27
7	季節の力	30
8	運気の力	32

コラム——国際郵便で年賀状 34

第2章 人生いろいろ、参加者もいろいろ

——トホホな人々

- 1 超自己中自慢話 37
- 2 超自己中異星人的女性の
歩けないトレッカー 41
- 3 英語しゃべらぬ英語教師 47
- 4 英語が達者なおじさん 49
- 5 うんちく王 51
- 6 しまったかぶりおばちゃま 54
- 7 宿泊施設破壊親父 56
- 8 人は見かけが全て 61
- 9 いま何時? 62
- 10 小さな親切大きなお世話 64
- 11 ラマダ……違い 65
- 12 年配者の食欲とバイタリテイ 67
- 13 スーパー女性添乗員 72
- 14 世界三大地獄旅 76
- 15 コラム——トイレ小話1 79

第3章 旅の始まりは「空港」です 80

- 1 待ちぼうけの添乗員 80
 - 2 チケットのポイ捨て 81
 - 3 旅行鞆の行く先は？ 83
 - 4 自分の便はどれ？ 85
 - 5 アメリカ流「心よりの歓迎」 87
 - 6 テロさん目をつけないで 91
 - 7 早起きは三文の損？ 92
 - 8 運の良いダブルブッキング 93
 - 9 傘がない 94
 - 10 寒い 96
 - 11 体調不良時は申告を 99
- コラム——クフ王と痴漢 101

第4章 自分は自分で守ろう 102

- 1 旅行会社は安全？ 102
- 2 現地観光バスは安全？ 107
- 3 各国面白安全対策 111

第5章 旅の実施編 トルコで試運転してみては？

136

- | | | |
|-----|-------------|-----|
| 4 | 業師スリ | 116 |
| 5 | 命がけの横断歩道 | 118 |
| 6 | 写真撮るのは大丈夫？ | 120 |
| 7 | ローカルルール | 127 |
| 8 | 海外トイレ事情 | 128 |
| コラム | ——トイレ小話2 | 135 |
| 1 | やっぱりお風呂でしょ | 137 |
| 2 | 古都サフランボル | 142 |
| 3 | 素朴さならココ東トルコ | 147 |
| 4 | 同時多発テロ | 152 |
| 5 | やっぱり買い物でしょ | 156 |
| 6 | 交通手段を確認して | 172 |
| 7 | やっぱり食べ物でしょ | 183 |
| 8 | 団体旅行の中の個人旅行 | 185 |
| コラム | ——バタヨン狩り | 192 |

第6章 移住生活って

コラム——マヤの壺割り 208 193

第7章 世界のお勧め 209

1 マチュピチュ 209

2 ボルネオ 216

3 南米 233

4 山旅の注意と高山病 237

5 保護したい遺産 247

コラム——私、待つわ 253

おわりに——自分設計のすすめ 255

序章 旅はお嫌いですか？

ポケ防止にもなります

なぜ「旅」をするのでしょうか？ 競争社会で生きる人の息抜きのため？ 毎日している旦那の子守をちよつと離れて息抜きするため？ 友達とショッピングや食べ歩きに興じるため？ または勤続二十年の自分へのご褒美？ 自分を見つめ直してみるために「旅」に出る？

理由はなんであれ「旅」はさまざまな方にいろいろな使われ方をされているものです。

最近よくマスクミが取り上げていることに「ポケ防止」なるものがあります。先日新聞で見たのですが、なんでもポケ防止には、1 毎日散歩する、2 日記をつける、3 恋

愛をする、4 料理を作る、5 旅行をする、6 社交ダンスをする、7 囲碁・将棋・麻雀などをする、とありました。

五番目に旅行が入っていることがうれしい限りですが、何よりうれしいのは旅行には他の六項目全ての要素が含まれていることです。

1は、団体旅行に行けば嫌でも毎日歩くことになります。また旅行のために日頃から歩く習慣をつける人も少なくありません。

2は、団体旅行では嫌でも明日の予定を添乗員から聞いてメモを取ることになります。これは強制的に日記を書かせられるようなものです。また、私のように旅行記として記す習慣を身につけるかもしれません。

3は、旅先では同行者の中で思わぬ出会いがあり、もちろん恋愛に発展するかもしれません。

4は、旅先で美味しかった料理を少し研究して、家で食べる機会もあるでしょう。私は家でトムヤンクンを作って食べるのが最近では趣味となっています。

6は、旅先の夜レストランへ行けば大概ステージに招かれて踊る機会もあります。そのためダンスを習う人も少なくありません。船旅に参加されるような方はダンスを習って

からという人が少なくないはずです。

7は、退屈な飛行機では詰め将棋に熱中している人も少なくありません。

など、こう考えてみると旅行にはありがたいことにボケ防止の全てが含まれているようです。あらためて、旅ってすばらしいとしか言いようがありません。

世界のさまざまな場所に「旅」をしているのですが、現在では、どの地においても判で押したように日本人観光客がいます。そして日本から世界のさまざまな地域にいろいろな趣向をこらしたツアーが毎日出発しています。

特にこれから数年間は団塊の世代の皆様が職場からリタイヤするのに伴う旅行人口の急増が予想されるものですから、旅行各社もそれらの人を取り込むツアーの企画に今から余念がありません。

海外って怖い？

そうは言っても、「海外って行ったことないし、怖いところよね」というのをよく耳にします。事実私の周りの人もそんな理由から絶対に行かない方が多々おられます。そんな皆様を納得させたり、ましてや説得までして海外へさそうようなことは私はしません。

実際問題、私の周りの人で私に説得されて海外へ行かれた方は一人もおりません。行かれる方は皆さん当然自分の意志で行くのですから、「行く人は行く」「行かない人は行かない」、それでけっこうです。

しかし、そんな私が考える「人生の半分以上を損して過ごされている方々」、よくよく考えてみてください。戦闘地域を除いて、日本人旅行者が殺されるというニュースをそうそう耳にするものではありません。むしろ日本にいれば毎日殺人事件のオンパレードですし、交通事故は言うに及ばず、すごいのは経済的、精神的な理由で、年間三〜四万人の人が自らの命を絶ち、加えて地震やら台風やらの自然災害も世界的に見てもたいへん多い国なのです。皆様がお考えになる以上に、日本ほど恐ろしい国は世界でも稀なのです。世界の国々から見れば、日本だって相当こわい国なのです。

不謹慎な表現にはなりますが、イラク戦争なる戦争が起こっても三年間トータルでの死者の総数は三〜四万人であることを考えても、毎年イラク戦争三年分の死者と同数の人が、自らその尊い命を絶つのがこの日本という国です。

私なども転勤の都度思うのですが、同じ事務所の同じ部屋に、朝から晩まである程度の人数が一緒に働いているのに、人によっては一日中ただの一言も交わさずに帰るといふこ

とも稀ではないのです。日本社会は大人も子供も自分自身が「異常」であると気づいて生活している人は少ないのではないのでしょうか。

また、私の友人が韓国から嫁さんをもたらったことですが、娘が日本へ嫁いで行くと言ったとき両親が大反対したというので、私はきつと日本人が嫌いだからそのようなことを言ったのだろうと思っていたら、そうではなく、「あんな地震があるところには行くな」と言われたのだそうです。「結婚相手は日本人でもいいけれど韓国で生活しろ」ということでした。国内にいれば、関東大震災級の大地震が起きれば都内では千人に一人は地震で死亡すると宣告されているような状態であるにもかかわらず、意外と日本で住むことの恐ろしさの認識を我々はしていないように思います。

こう考えると、むしろ日本脱出が安全の近道と考えて旅行を楽しむ、というのもありかもしれません。いかに日本を離れ、生臭いニュースを耳にしないことが精神的にいいものであるかを知ってもらえればと思います。しかし、けっして本書では旅の良いことばかりを書いてはおりません。かえって旅行者からすれば「よ、し、て、く、れ」と言われそうな内容もあります。

冒頭のアンデルセンの言葉を思い出してください。旅こそ人生とあります。ですから旅

には良いこと悪いこと全ての要素が含まれてこそだと私は思います。残念ながら本書により「やっぱり旅行は……」となる方もおられるかもしれませんが、反対に「旅に出てみよう！」と思われる方もおられるかもしれません。両者ともありなのでしょう。さあ、あなたの人生を刻んでいってください。

第1章 あなたは旅の「力」持ち？

まず、旅行に必要なものってなんでしょうか。これは単純に旅行には何を持っていくかということではありません。それでは旅に何が必要かと申しますと、それは間違いなく「健康な身体」「気力」「欲望」「財力」「周囲の協力」「目的意識」「趣味」それと「運氣」なのではないかと思えます。

最初に、誰でもどこへ行くのかを考えます。すると、当然自分の興味がある場所を思い描きます。それが「趣味」「目的意識」と連動してきます。それは遺跡であったり、山旅であったり、スポーツ観戦であったり、大自然（花や動物など）だったりします。そしてここで「死ぬまでにぜひともここだけは見てみたい」「これだけはやっておきたい」とい

う「欲望」が働いてくれば、すでに旅は始まりです。

1 お金の力

私のように旅行のため、転職続きのような者とは違い、本書を購読するであろう団塊の世代の皆様であれば、「お金の力」については問題なくクリアされる方が多いことでしよう。ただ引退後の意外と長い第二の人生も考えながら、しっかりと資金計画は必要でしょうけれど、それでも比較的まだ年金がもらえるであろう皆様の年代では、計画は立てやすいはずで。保険の一時金やら、定期の満期日やらを指折り数えて旅を思うのもいいかもしれません。

最近では旅行会社で旅行積み立てなどということもやっているようです。

2 食事の力

他国の食文化にどれだけ耐えられるか、または順応できるかが、なによりその方の本来

持つ体力に直接的に影響し、旅行そのものを活かしも殺しもあります。

団塊の世代の皆様の年代ですと、過ごしてきた時代にはグルメブームなどがあり、比較的若いうちにかなり洋食化が進んでいます。おそらく欧米への一般観光地に行くには、さほどの問題がないように思います。引退後の旅行では、長くとも一週間程度しか予定が立てられなかった現役時代とは違い、当然日程も長くなってきます。日本食以外にも慣れていく世代とはいえ、一週間から二週間程度でも異国での生活、そして団体での生活となると意外と楽観視できないのが、この食事という問題なのです。

洋食・中華などに慣れていく方であっても、和食以外で長期間過ごすことがいかにたいへんか、体験するとよくお分かりになると思います。私などは普段から和食でなくとも過ごせてしまう代表選手ですが、そんな私でも以前北京に長期滞在した際には、正直参りました。

今から二十年近く前、内陸部に位置する北京では、その当時、今のようには輸送手段も発達していなかったのです、新鮮な魚介類というものが簡単に手に入る状態ではありませんでした。料理といえば皆様が思い描く中国料理そのもので、高温の油で手早く炒めた野菜や川魚などがテーブルに所狭しと並ぶのです。滞在した当初は憧れの中国料理が目の前にド

ーンと並ぶ様を見て本当に喜んで食べたものでしたが、三日目、四日目となると、その油料理についていけなくなったのを覚えています。結局は朝のお粥とお饅頭をしつかり食べて、昼食と夕食は適当に食べてやり過ごしたものでした。海外食道楽の私ですが、今となつては苦い体験談です。

本当に甘いもの、辛いもの、スパイシーなものもなんなくこなす私ですらこんな状態ですから、好き嫌いの激しい方は食べ慣れたものを持参するに限ります。

しかし長期の旅行では、荷物もさほど持っていけませんし、飛行機の機内預け荷物の重量に制限もあります。なにより持っていく当の本人が荷物の多いのは嫌なものです。しかし食事だけは本当に困りもので、現地での食が合わずに日に日に食が細くなって、旅の終盤では旅行を楽しむどころか、ついて歩くのだけで精一杯、という方も今までに何人も見えています。これは筋肉モリモリといった体力があるかないか、という問題ではないので、多くの方が対策を講じる必要がある問題です。

そしてこの「食事」対策ですが、一番いいのは、ホテルの朝食に出向くことです。そうすると、大概のホテルでは、パンやら果物・ヨーグルトなどが置いてあります。お行儀は悪いのですが、それらのものを自分の携帯食として仕入れておくのです。特にバナナを二

「三本仕入れておきましょう。また多くのオバチャマたちは、世界中のどこに行っても大概出てくるじゃがいも料理のみを食べて、旅行期間を生き延びる人も珍しくはありません。あとは日本から持っていったあめやらお菓子があれば、二週間程度までの一般の観光地巡りの旅行ならばだいじょうぶです。

トレッキングや登山の場合でも、ツアーなどで行く場合には、朝はパンに卵料理・ウイナー・りんごにヨーグルトなどは出てきますので、自分で食べられるものを懐にキープしておけばなんとか事足りるでしょう。それ以上のものを望む方は、元々、山旅は無理だとあきらめましょう。人間という生き物は、そんなに食べなくとも意外とだいじょうぶにできているものです。

また、普段から大食漢の方などは、旅行前の数週間は**若干小食に慣れておけばいい**でしょう。意外とこの方法は皆様、気がつかない方法なのですが、旅行中食事で苦勞する人には重要なテクニクとなります。日頃より小食に慣れてしまえば、朝だけ十分取って後は適当に間食するだけで旅行を乗り切ってしまう方がいるのも事実です。

もう一つ、旅行中の食事の注意として、現地でてくる生野菜には、現地の生水がたっぷり付いていたり、おいしいと言って飲んだジュースの中身の大半が現地の水だったりし

て、お腹を壊すなんてことがあります。生野菜や生水には十分気をつけてください。

現地に行つて現地の食文化を知ること「旅」の大きな楽しみの一つですから、現地料理から逃げる必要は全くありません。むしろ大いにトライしてみたいくらいですが、用心に用心を重ねることは大いに大事なことです。ミャンマーの屋台なんて、ご飯などは店員が目の前でおひつから手づかみで皿に盛ります。海外のやり方をご存知ない方がそのような場に行けば、おそらくそこばかりでなく、他のレストランに入つても屋台のことを思い出して食欲が出なくなったりもするかもしれません。基本的な体力がいくらあつても、食事につまずけばどうにもならないのが海外です。

3 身体之力

さて、実際の体力ですが、都市部の一般の観光ツアーでは、普段、街でショッピングを二〜三時間程度する体力があれば十分ですが、トレッキングや登山では、場所ごとのランクに応じた体力が必要であることは言うまでもありません。それぞれの歩く必要体力の度合いはそれぞれのツアー会社のパンフレットに記載されているので、参考にしていただき

たいのですが、最近はそのようなことに関係なく、誰でも参加してくるので、ツアー客内で体力に大きな差が出ているのが現状で、今ではこれが山旅の団体ツアーでの大きな問題となつていきます。

少なくとも山旅に参加される方は、日頃より十分運動をして、過信することなく、歩けるといふ確信と自信を持つてから参加していただきたいと思えます。体力もないのに参加して他人に迷惑をかけるということ、これは後ほど本書で十分お伝えしたい題材ですの
で、ここではこの程度にしておきます。

4 病への力

これをお読みのあなたが、そろそろ仕事をリタイヤしていかれるような年代であれば、持病を抱えて参加する方もいるのではないのでしょうか？ 私が参加した団体旅行の中で、チベットのラサに向かう途中「三国志」で有名な成都で、いよいよこれからチベットへ飛び立つという前日に、身体に異常を訴えた方がおりました。その夜、成都の病院へ緊急入院及び緊急手術をして、結局チベットを見ずして日本から成都までの行き帰りの飛行機だ

け我々と行動を共にされた方がおられました。

この方はこの方で、中国という異国の地で、入院という多くの方ができないような貴重な経験を積まれたということなのでしょうが、ツアー会社やら添乗員はてんやわんやの大騒ぎでした。

また、ネパールへトレッキングに行ったときも、同じツアーの参加者が持病が再発したため、トレッキングを中止し、馬で下山して、カトマンズの病院で緊急手術をしたことがあります。

余談ですが、このときのトレッキングのリーダーは登山家として世界的に有名な方でして、その方が患者を連れて病院に行ったら、多くの医師が来て手当てをしてくれるだろうと思いきや、その有名登山家に対して自分の白衣にサインを求めにきたといいます。今となっては笑い話ですが……。

持病持ちではなくとも普段たいへん元気なオバチャマが山で急に歩けなくなって、その場で横になってしまったこともありました。その際には私がお腹に手を当て、まさしく手当てをしてお腹を暖めることで回復を図りました。だいたいこのような場合は内臓にきている場合が多いので、暖めてあげるとなるとかなるケースが多いことを私は経験から知っ

ていたので、そうしたのですが、こんなことも実際にあるのです。

ですから、皆さんができる限り、持病や以前に治療を受けたものについての情報を、ツアーリーダーにしっかりと告げておくということも「旅」の事前準備としては絶対に必要なことなのです。

5 周囲の力

「周囲の協力」、これも大変大切なことです。夫婦で出かけるためには、ご近所の方へ留守にすることを告げねばならないこともあるでしょうし、旅行期間中に自治会の催し物でもあったら、さあたいへんです。ペットを飼っている方などはその扱いに苦労することもあります。現在ではペットホテルを利用して、ツアーに参加されている方も多くおられますが、やはり親族にペットを預けるといいう方が多いようです。ペット問題などは「周囲の協力」なくしてはやっていけない良い例です。

それから、友人と参加するような場合であれば、残してくるご主人や奥さんには、十分協力してもらえるように、日頃からその関係を構築しておかなければなりません。現役組

途中省略

本編はダウンロード時間短縮のため省略版でお届けしています。
途中省略なしの完全版をご希望の方は製品版をご「購読」ください。

著者プロフィール

一歩 歩 (いっぽ あゆむ)

1961年、長野県生まれ

1年半に及ぶハワイ在住経験がある。仕事の傍ら、海外渡航経験は60回を数える。一番の趣味は日本の温泉巡りである。

前略 団塊の旅行世代様

2006年9月15日 電子出版発行

著 者 一歩 歩
発 行 者 瓜谷 綱延
発 行 所 株式会社文芸社

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-10-1
電話 03-5369-3060 (編集)
03-5369-2299 (販売)

<http://www.boon-gate.com>

© yumu Ippo 2006 Corded in Japan

ISBN4-286-01438-X

(文芸社発行の通常書籍(紙の本)については、全国書店でお尋ねいただくか、「文芸社ON-LINE」
サイト、<http://www.bungeisha.co.jp>を御参照ください。)

新 06.09.01 M.S.